



学校だより

令和4年1月11日
北区立稲田小学校
校長 吉田 友信

「挑戦」

校長 吉田 友信

1年前は、政府による一都三県への緊急事態宣言の発出と共に新年の教育活動を始めましたが、本年（令和4年）も、新たな変異株がにわかに猛威を振るい始めたこのタイミングで教育活動を始めることとなりました。

全校児童一人一人につけたい力を定着させるための積極的な教育活動の推進と感染症リスクを下げるための慎重な対策とを同時に展開する前例のない厳しい判断の連続に苦悩の日々となりますが、皆様からのご理解とご協力を教職員一同の勇気と意欲にかえて、挑戦していきたいと考えています。本年もよろしくお願いいたします。

さて、この年末年始に私は、出掛ける機会を減らし、今後の教育活動をどのように進めていくべきかについて、じっくりと考え続けていました。その結果、「挑戦」という言葉が浮かび上がってきました。これまでの様々な調査によると、日本の子どもは他国と比べて「自己肯定感が低い」といわれて久しいですが、同時に「挑戦しようという気持ちが低い」ことも明らかになってきています。この結果には、日本人の美德とされてきた「謙虚さ」や「奥ゆかしさ」等の背景や、「他人と異なることを避けたい」、「自己主張を避けて無難でいたい」という大人社会の大きな影響が考えられます。

今やコロナ禍にあり、日常生活や教育活動に様々な制限があり、特に児童の人間関係や直接体験を伴った経験が少なくなっているように思います。何かに夢中になって「挑戦」することも少なくなっているような気がします。社会全体が児童に失敗させることを避け、より安全に無難にという風潮に押し込めているのではないかと考えてしまいます。

とりわけ1月から4月までの3ヶ月間は、稲田っ子一人一人の進学・進級を控えた大切な期間ですから、まず発達段階に応じた自己の目標設定と「挑戦」できるような環境の創造を目指します。そのためには、「挑戦がうまくいかなくてもいい」、「失敗より挑戦しないことの方が恥ずかしい」、「友達の挑戦や失敗を誰も馬鹿にできない」、「結果はどうであれ、とにかく挑戦してみてもいい」という保護者や教職員が家庭でも学校でも同様の価値観で見守ることにより安心感を与えることが必要であると考えます。

このような大人の働き掛けに背中を押された児童が、ようやく重い腰を上げて「挑戦」することがあれば、それはまさに家庭と学校の連携が起こした奇跡です。これから始まる3ヶ月間で、稲田っ子をいかに本気にさせて一つでも多くの「挑戦」の奇跡を起こすことができるかは、保護者の皆様と私たち教職員の連携による協働作業の成果といえます。

ぜひ、稲田っ子一人一人に、「挑戦」から得られる失敗や成功の体験を数多く経験させることにより、児童に「自己肯定感」、「折れない心・切れない心」、「失敗した他者への優しさ・思いやり」、「違いを認め、尊重する心」、「個性伸長と多様性」、「価値観の異なる他者との合意形成の回り方」など、数多くの果実を結実させたいと考えるに至りました。



降り積もった校庭一面の雪（7日撮影）

◆1月の主な行事予定◆

11日（火）	全校朝会 安全指導 4時間授業 給食始	20日（木）	児童集会 クラブ
12日（水）	4時間授業	21日（金）	あいさつ運動3-2終
13日（木）	席書会3・4年	24日（月）	代表委員会
14日（金）	避難訓練 席書会5・6年	27日（木）	新年稲田まつり
17日（月）	委員会 5時間授業1~4年 あいさつ運動3-2始	29日（土）	土曜公開授業
18日（火）	たてわり班遊び 5時間授業	31日（月）	あいさつ運動始
19日（水）	4時間授業 研究授業3-2		